

2024年1月25日

Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会
会長 篠田 洋司 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第50回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2023年12月14日に行われた第50回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

この4年間で、ジオパークの魅力を幅広く伝えるために、施設の改善やジオストーリーの作成と共有、ガイドの育成など、関係機関との連携を強化し、多岐にわたる取り組みが進んでいる。特に一部の施設で展示の改善や関係者との連携が進み、ジオパークの魅力がより幅広くアピールできるようになった。観光受け入れや秋吉台、秋芳洞の保全にも進展がみられた。

事務局体制について、現スタッフはユネスコ世界ジオパークの理念を理解し、プログラムの理念やジオパークネットワーク所属のメリットを地域全体に活かす取り組みが盛んになっている。世界認定を意識する本ジオパークだからこそ、充実したメンバーや体制を維持しながら、さらに事業成果を上げていくことを期待したい。

一方、ジオパークの基本計画の策定は着手されているものの、いまだに確立されていない。基本計画は、地域内の関係機関とジオパークの取り組みを共有し、進捗を把握するための重要な土台となるので早急に策定が必要である。また、地質物品の販売や扱いに関する課題が残っており、地域内での具体的な対応や方針策定に引き続き取り組む必要がある。

【優れている点】

- ・ジオガイドの活躍の場が増え、当日受付可能なジオツアーなど観光受け入れが進んだ。
- ・秋吉台科学博物館などで展示施設の改修と関係者との連携強化が進んだ。
- ・秋吉台の保存活用計画策定や、秋芳洞の照明植生対応などの保全活用に進展が見られた。
- ・イベント開催や共同プロジェクトを通じ、地域住民をジオパーク活動に巻き込む活動も強化された。厚保の甌穴群と周辺の整備や、ボタツ子クラブの活動など、住民が地域の遺産を保全、活用していこうとする動きをジオパークが後押しできている。
- ・伝統の継承が困難になりつつある無形遺産に積極的に関与し、担い手の士気向上や伝統文化の普及、記録保存に貢献している。広くネットワーク内で共有すべき好事例である。
- ・ジオパークを取り入れた教育プログラムによって、地域について児童生徒が主体的に学び、成果を伝え、さらに自身の成長や地域を良くしていこうという活動へとつながるようになった。

【今後の課題・改善すべき点】

I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. 現在のサイト一覧を、サイトへのアクセスの難易度や保全状況、活用状況などをモニタリングできるように、サイトの状況を逐次管理できるリストに改善してほしい。

II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

2. 市民への可視性は高いものの、エリア外から来る人への可視性がまだ低い。ジオパークの主なサイトへの導線、本ジオパークの主な「玄関口」などでの、費用対効果を考慮した、可視性の向上を図ってほしい。
3. 国際的価値の発信はまだ十分ではない。ジオサイト帰水などの価値をホームページ、パンフレット、看板等に明確に示し、来訪者が国際的価値の情報に容易にアクセスできるようにしてほしい。科学博物館の帰水採集ボーリングコアも、国際的価値が分かりやすい展示への改修を検討していただきたい。秋芳洞は利用者が多くその価値も高いが、ジオパーク的な見せ方ができていない。特に、洞窟内を大音量で流れる音声ガイド装置については、改善を要する。例えば、ジオパークの解説を読み取れるQRコードを看板につけるなど、観光客に秋芳洞の成り立ちや人との関わりを解説する手法を関係機関と検討してほしい。
4. エリア内に貴重な動植物などの自然遺産が存在するが、ジオパークでの活用が十分ではない。それらの活用を促進するため、地域内の博物館やラムサール条約湿地の担当機関と連携を進めてほしい。特に、秋芳洞内で得られるラムサール条約湿地の情報が少ない。ジオパークとしてそれらの遺産を位置づけ、ジオツアーなどで積極的に取り上げ連携を進めてほしい。
5. 地質物品販売への対応として、ジオパークエリア外のを減らし、エリア内のは工業原料採掘品のアップサイクル利用を認める方針が出された。本地域の石灰岩は、東台では厳格に保護され、西台ではくらしを支える工業原料に用いられ、それぞれ価値が認識されている。そうした地域だからこそ、単に開発区と保護区を分けた対応ではなく、地質資源や地質遺産の意味や価値、それらへの向き合い方を観光部局や商工部局をはじめとする関係者で十分議論し、持続可能な地質資源利用への具体的対応を進めてほしい。施設やパンフレット、ホームページなど既存媒体に理念を明示するとともに、地質物品に接する来訪者がそのことを確認できるようにしてほしい。

III 中長期的に解決すべき事項

6. ジオパークを取り入れた教育プログラムが大きな成果を出しているが、教員の異動などがあってもそのプログラムを継続できるように、ジオパークと教育委員会が連携してその仕組みを整えていただきたい。例えば、基本的な学習内容のパッケージ化や、小中一貫した学習プログラムの進捗状況を可視化するなど計画的に取り組んでいただきたい。
7. 白・黒・赤に直接結びつく文化サイト以外では、地形地質と文化歴史とのつながりが薄いように感じられるので、そうしたサイトでもそれらのつながりについての説明を充実させてほしい。
8. 土産物としての地質物品の販売について、これまで継続してきた対話をさらに進め、地域の実情を正確に分析していく必要がある。そのうえで代替品の販売を検討するなど、販売をどう減らしていくのか具体的な戦略を立ててほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上